

須田国太郎と

所蔵品展Ⅴ

京都ゆかりの芸術家

京都洋画壇の重鎮、須田国太郎（1891-1961）。京都に生まれ、生涯この地を拠点に活動を行い、数多くの作品を生み出しました。本展では、須田国太郎とあわせて、同時代に活躍した京都ゆかりの芸術家を紹介し、須田の生きた時代背景とともに巡ります。

須田国太郎（1891-1961）

須田が画家として世に出たのは、1932（昭和7）年に開催した初個展がきっかけで、この時41歳でした。遅咲きですが、油絵を描きはじめてのは19歳の頃で独学でした。京都帝国大学（現・京都大学）で美学・美術史を学び、「写実主義」や「絵画の理論と技巧」を研究テーマに励み、在学中は関西美術院にも入学してデッサンを学びました。

1919（大正8）年からスペインを拠点に4年間留学。模写を通して、また多くの国や都市を訪問して美術文化に触れ、西洋美術の見識を深めました。その後、美術史講師、学者としての道を歩みながら制作を続けました。これは、画家として開花する土壌で

あったと言えます。

深い西洋的教養と、古都京都で育まれた東洋的な体質に裏付けられた、独特な世界観を須田は作品に昇華させていきました。



須田国太郎
《大和室生寺十一面観音像》油彩・紙



里見勝蔵《イビサ風景》油彩・キャンバス



福田平八郎《春雨》紙本彩色



左：富本憲吉《芍薬の壺》木版画



右：富本憲吉《色絵染付梅と竹模様瓶》磁器

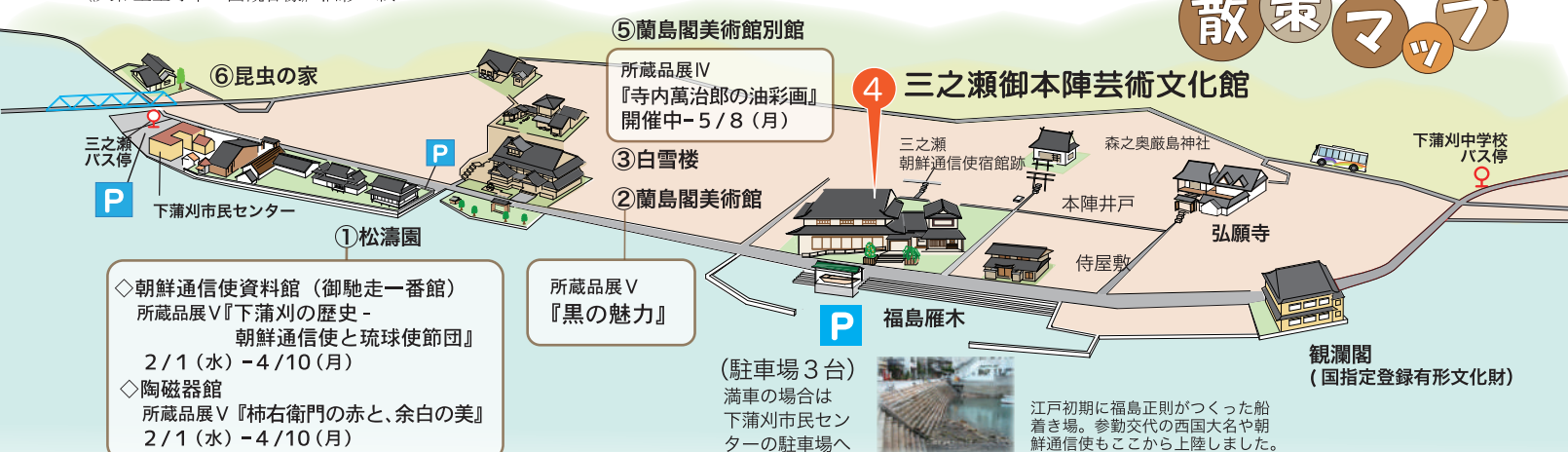
京都ゆかりの芸術家

京都生まれの洋画家、里見勝蔵（1895-1981）。1930（昭和5）年に独立美術協会を創立した一人で、フォーブ運動を展開した画家です。須田の初個展では画才を見出し、彼を独立美術協会に紹介して、画家への道を後押ししました。

その独立美術協会で須田と同期会員になった小林和作（1888-1974）。京都市立絵画専門学校（現・京都市立芸術大学）日本画科を卒業し、修行時代を長く京都で過ごします。小林の勧めで、須田は日本画も多く手がけるようになり、互いに影響を与えながら、生涯を通して親交を深めました。

この他、須田の関西美術院時代に研究生として共に学んだ向井潤吉（1901-1995）や一緒に展覧会を開催した画家たちをはじめ、京都市立美術大学開学時〔1950（昭和25）年〕に須田と同じく教授に就任し、京都での文化振興に尽くした陶芸家の富本憲吉（1886-1963）など、京都ゆかりの芸術家の作品を紹介します。

散策マップ



広島市内から車で約60分

呉市内より国道185号線を竹原方面へ。安芸灘大橋（有料）を渡った最初の島が下蒲刈島です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用できます。

指定施設にて1,000円以上ご利用の方に安芸灘大橋の帰りの通行券を進呈！
詳しくは、くれ観光情報プラザ TEL:0823-23-7845 まで

広島市内からバス利用の場合

広島バスセンター（6番のりば）から、さんようバス運行の蒲刈・豊浜・豊線「沖友天満宮前行」バスに乗りし「下蒲刈中学校」を下車。または「見戸代」下車後、接続のバスへ乗り換え「三之瀬」を下車。

JR 呉市内から電車・バス利用の場合

JR 呉線で広島駅または仁方駅を下車。駅前バス停から瀬戸内産交運行の「宮農センター・沖友天満宮行き」バスに乗り、「下蒲刈中学校」または「三之瀬」で下車。バスは上下線とも毎時1本運行しています。
〔バスに関するお問い合わせ：瀬戸内産交（株）TEL 0823-70-7051〕

三之瀬御本陣芸術文化館



Instagram Facebook



QRコードからアクセスできます！



MAP:QRコード



新型コロナウイルス感染予防に関するお客様へのお願い

●発熱や軽度でも咳・のどの痛みなどの症状がある場合は、ご来館をお控えください。●ご入館の際は、マスクの着用をお願いします。●入館時の検温にご協力下さい。●入館時に手指のアルコール消毒をお願いします。●新型コロナウイルス感染状況によっては、今後予定しております展覧会の変更または臨時休館をする場合がございます。最新の情報は、HPをご覧ください。か当館にお問い合わせください。